

「北九州市スポーツ振興計画」の計画期間について

1 計画の概要

(1) 計画の位置づけ

スポーツ振興計画は、スポーツ基本法に基づく本市のスポーツ振興に関する基本計画として平成23年度に策定し、基本構想・基本計画である「元気発進！北九州」プランの部門別計画として位置づけている。

(2) 計画期間

平成23（2011）年度～令和2（2020）年度〔平成28年度改訂〕

(3) 基本理念

ライフステージに応じたスポーツ機会の創造とスポーツを通じた元気なまちづくりの推進

(4) 目 標

市民の「豊かなスポーツライフ」の形成・定着を目指し、スポーツを「する人」「みる人」「創る・支える人」について、それぞれ目標を定めている。

	指標	令和元年度実績	目標
する人	スポーツ実施率（週1回以上スポーツ・運動を実施）	52.6%	65%
	小・中学生の全国体力・運動能力の実技結果（各実技種目での全国平均値以上の種目数の割合）	○小学生（5年生） 男子 8種目/8種目中 女子 8種目/8種目中 ○中学生（2年生） 男子 8種目/9種目中 女子 8種目/9種目中	全実技種目で 全国平均値以上
みる人	スポーツ観戦率（1年間に競技場で観戦）	27.7%	40%
創る・支える人	総合型地域スポーツクラブにかかわる人（会員・指導者等）	2,074人	4,000人

(5) 計画の体系

- ◆政策Ⅰ 生涯・競技スポーツの普及・振興
- ◆政策Ⅱ 学校体育等の連携・充実
- ◆政策Ⅲ スポーツによるまちの活性化
- ◆政策Ⅳ 指導者の養成と有効活用
- ◆政策Ⅴ スポーツ施設・情報基盤の整備

2 これまでの主な取り組み

政策Ⅰ 生涯・競技スポーツの普及・振興

(1) 北九州マラソン

平成26年2月、北九州市制50周年を記念して始まった北九州マラソンは参加者1万人規模のフルマラソン大会であり、本市の魅力を全国に発信することやスポーツによるまちの賑わいづくり、スポーツの振興などを目的に開催している。

大会では、走りやすいコース設定やスタート・フィニッシュ地点の利便性のほか、途切れることのない沿道の声援、ボランティアスタッフのサポート、地元企業・市民の協力により、毎年高い評価を受ける大会となっている。



(2) 夢・スポーツ振興事業

国際・全国大会等で活躍する次世代を担うジュニアアスリートを育成するため、オリンピック等のトップアスリートから直接指導を受けるスポーツ教室を実施している。

受講者の中からは、競歩の藤井菜々子選手が東京2020オリンピック競技大会の出場選手に内定している。

政策Ⅱ 学校体育等の連携・充実

(1) 体力アップ推進事業

「北九州市体力向上プログラム」の活用等による「1校1取組」の実践を通じ、日常的に運動に親しみ、体力向上に向けて意欲的に運動に親しむ資質や能力を育成し、小・中学生の体力向上に取り組んでいる。

(2) スポーツ体験教室

小学生等を対象に、スポーツの楽しさを体験してもらい、運動習慣の定着を図るため、ギラヴァンツ北九州や福岡ソフトバンクホークスの選手等を講師としたスポーツ体験教室などを開催している。



政策Ⅲ スポーツによるまちの活性化

(1) 大規模国際スポーツ大会開催

スポーツの振興に加え、まちのイメージアップやにぎわいづくりにつなげるため、「みる」スポーツの機会創出に向けて国際スポーツ大会を誘致し、開催している。

①ワールドラグビー女子セブンズシリーズ

世界最高峰の7人制女子ラグビーの国際大会が平成29年度に日本で初開催となり、令和元年度まで3年連続で開催した。

- 開催 平成29年4月22日～23日、平成30年4月21日～22日、平成31年4月20日～21日
- 会場 ミクニワールドスタジアム北九州
- 観戦 平成29年度：約4,000人、平成30年度：約6,400人、平成31年度：約9,500人



②ITTF ワールドツアー卓球ジャパンオープン萩村杯

国内最高峰の卓球の国際大会を市制55周年記念事業として開催した。

- 開催 平成30年6月6日～10日
- 会場 北九州市立総合体育館
- 観戦 約12,600人

③北九州2018ワールドパラパワーリフティングアジア・オセアニアオープン選手権大会

パラパワーリフティング（下肢障害者によるベンチプレス）の国際大会を日本で初開催した。

- 開催 平成30年9月8日～12日
- 会場 北九州芸術劇場
- 観戦 約2,000人

④フェドカップ

世界最高峰のテニス女子国別対抗戦を九州で初開催した。

- 開催 平成 31 年 2 月 9 日～10 日
- 会場 北九州市立総合体育館
- 観戦 約 6,800 人

⑤サッカー女子日本代表なでしこジャパン国際親善試合

ミクニワールドスタジアム北九州で初となるサッカーの国際試合を開催した。

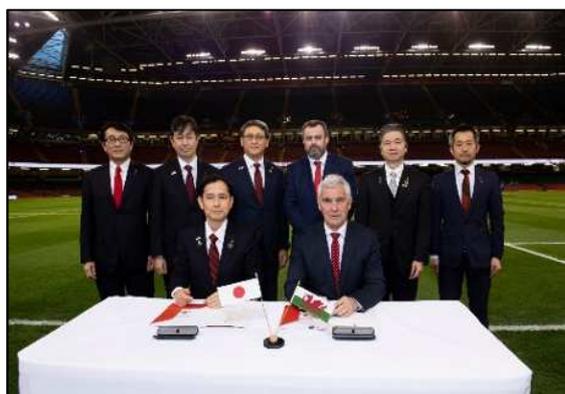
- 開催 令和元年 11 月 10 日
- 会場 ミクニワールドスタジアム北九州
- 観戦 約 8,400 人

(2) ラグビーワールドカップ2019ウェールズ代表キャンプ

ラグビーワールドカップ2019日本大会（RWC）において、ウェールズ代表チームによるキャンプを実施した。

RWCの機運醸成を目的としたシティドレッシングや交流行事を実施し、ミクニワールドスタジアム北九州で開催した公開練習では、同スタジアム初の満員となる15,300人の観客が訪れ、ウェールズ国歌の大合唱で代表チームを歓迎した。

RWCを契機に構築されたウェールズとの友好協力関係をレガシーとして持続・発展させていたため、ウェールズラグビー協会とレガシー協定を締結し、今後も交流事業を実施することとしている。



(3) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、本市のスポーツ振興や国際交流を推進する絶好の機会と捉え、事前キャンプの誘致に取り組んできた。

新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の開催が1年延期されたが、引き続き事前キャンプの実施に向けて、各国と調整を進めている。

[キャンプの誘致決定状況（令和2年10月末時点）]

	国	競技
オリンピック	タイ王国	卓球・テコンドー
	コロンビア	〔10競技（予定）〕 卓球・テコンドー・アーチェリー・空手 フェンシング・体操・トランポリン 競泳・トライアスロン・自転車
パラリンピック	英国	車いすラグビー
	ドイツ	車いすバスケットボール

(4) プロスポーツチームの支援

本市をホームタウンとするプロスポーツチームであるギラヴァンツ北九州やボルクバレット北九州のホームゲーム開催の支援等を通じ、「みる」スポーツの機会創出とともに、まちのイメージアップやにぎわいづくりに取り組んでいる。

競技レベルの高いプロスポーツの試合に市民を招待する観戦事業を通じ、市民のスポーツへの関心や意欲を高めるとともに、チームへの応援機運の醸成に取り組んでいる。



政策Ⅳ 指導者の養成と有効活用

(1) スポーツ推進委員等の養成

地域スポーツの総合的な推進役を担うスポーツ推進委員を対象にした研修会や、スポーツ協会による生涯スポーツリーダー養成講座、レクリエーション協会によるレク・インストラクター養成講座等を通じ、スポーツ指導者の育成・支援に取り組んでいる。

(2) スポーツボランティアリーダーの養成

スポーツボランティアリーダー養成研修会を通じ、スポーツイベントを支えるスポーツボランティアのまとめ役となるリーダーの養成に取り組んでいる。

政策Ⅴ スポーツ施設・情報基盤の整備

(1) ミクニワールドスタジアム北九州整備

Jリーグやラグビートップリーグの試合開催をはじめ、大規模国際スポーツ大会等の誘致を図るため、都心部に“海ちか・街なか”スタジアムとして整備し、ネーミングライツにより愛称「ミクニワールドスタジアム北九州」としてオープンした。

サッカーやラグビーだけでなく、市民が気軽に参加できるスポーツイベントやコンサートの開催など、多目的に活用し、年間20万人を超える人々が来場している。

〔施設概要〕

○着工：平成27年4月 / 竣工：平成29年1月

○収容人数 15,300人



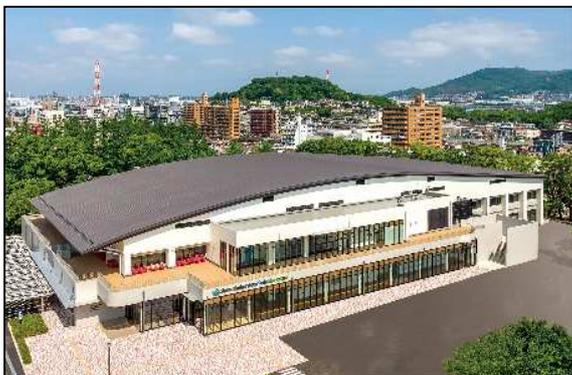
(2) グローバルマーケットアクアパーク桃園整備

更新時期を迎えた市内唯一の室内公認50mプールである桃園市民プールを再整備し、ネーミングライツにより愛称「グローバルマーケットアクアパーク桃園」としてオープンした。

幅広い世代の健康づくりや各競技大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致に対応した施設となっている。

〔施設概要〕

- 着工：平成30年12月 / 竣工：令和2年3月
- 観客席 800席
- プール 室内50mプール（公認8レーン）
室内25mプール（公認6レーン）
室内児童プール、室内幼児プール



(3) 浅生スポーツセンター整備

公共施設マネジメントを推進するため、戸畑区に点在するスポーツ施設を集約し、複合型スポーツとしてオープンした。

〔施設概要〕

- 着工：平成26年12月 / 竣工：平成28年10月
- 施設 アリーナ、室内プール、
柔剣道場、弓道場、
トレーニング室
多目的室、テニス場



3 計画期間の延長

次期北九州市スポーツ振興計画の策定に当たっては、国の次期スポーツ基本計画や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー継承を踏まえた政策を反映させることが適当であることから、それまでの間は現行計画の期間を延長することとする。

〔変更前〕 平成23（2011）年度 ～ 令和2（2020）年度
 〔変更後〕 平成23（2011）年度 ～ 令和4（2022）年度

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
スポーツ基本計画（国）	現行計画		次期計画（予定）	
		★オリ・パラ		
北九州市スポーツ振興計画	現行計画	計画期間の延長		次期計画 (2023～)

【北九州市スポーツ推進審議会の審議結果（令和2年10月15日）】

北九州市スポーツ推進審議会に諮り、計画期間の2年間延長が承認された。

〔主な意見要旨〕

- 国の動向や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の結果を踏まえる必要があり、計画期間の延長は適切と考える。
- 学校体育では、新型コロナウイルス感染症に伴う運動不足の影響が大きく、小・中学生の体力・運動能力の実績は、従来のように高い数値がでないと思われる。

【参考】北九州市スポーツ推進審議会

スポーツ基本法第31条に基づき、スポーツ振興計画、その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議するために設置している市の附属機関。

【北九州市教育委員会の意見聴取（令和2年10月22日）】

北九州市教育委員会から計画期間の2年間延長について、意見を聴取した。

〔主な意見要旨〕

- 高い目標を設定したのかもしれないが、総括として「創る・支える人」については、目標の半分しか達していない。
- 「創る・支える人」の指標は、総合型地域スポーツクラブにかかわる人だけというのはどうかと思う。他にも様々な人が関係している。

【参考】スポーツ基本法（平成23年法律第78号）

第10条（略）

2 特定地方公共団体の長が地方スポーツ推進計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、当該特定地方公共団体の教育委員会の意見を聴かなければならない。

※特定地方公共団体：条例により首長がスポーツに関する事務を管理及び執行する
 地方公共団体